

仕合わせの和



第173号
H. 28. 8. 1
(毎月1日発行)

お盆の由来と

塔婆供養の大切さ

住職 谷川寛俊

早いもので、お盆の月を迎えました。お盆の由来についてはすでにご承知のことと思いますが、ここで今一度振り返ってみたいと思います。

お釈迦様の十大弟子の一人「目連尊者」の母親が、生前中あまりにも貧欲で、人に施すという気持ちがありませんでした。ここで一つ疑問が浮かびます。「十大弟子の一人に数えられる目連尊者の母親ともあろうう人が貪欲？」という、にわかには信じがたい事実です。実はこれには理由がありまして、息子である目連尊者を溺愛していたのです。あまりに可愛い大切な息子が喜んでさえいればそれで良い…。貪欲な気持ちの元は、親心からきていたのです。子を持つ親なら分かる気もいたします。それで、他人の子供がお腹を空かせていようが、見て見ぬ振り。我が息子、

目連がお腹を空かせた時に食べさせる食べ物だから…そんな親心から、息子以外の子供達には目もくれませんでした。その報いとして、餓鬼道という地獄の世界に堕ちてしまったのです。

目連尊者は驚きます。「あんなに優しく愛情深い母親が、なぜ餓鬼道になんか堕ちてしまっているのか…?」。目連尊者は母親を救いたい一心で、師匠であるお釈迦様に伺います。するとお釈迦様は、「雨安居(うあんご)」という大勢のお坊さん達の修行が終わる七月十五日に、「百味(ひやくみ)の飲食(おんじき)」を供養(くわんぎやう)しなさい、と。つまり、今言う法要後の直会(なおらい)の席です。この直会の席というのは、実はとても大切なおもてなしなのです。何と言っても私達は、口から飲食を頂戴する事によって、我が身を保持しているわけですから、その命の源である食物等を大いにご供養することが、大切な行為であり、大きな功德を積むことになるのです。

日蓮大聖人も『食物三徳御書』に「食物には3つの徳がある。1には生命を継ぎ、2には色を増し、3には力を強

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

くする徳である。人に物を施せば(それが還って)我が身を助けることになる。例えば人のために灯をともしあげれば(その人の前を明るくすると同時に)自分の前も明るくなるようなものです。(もし)悪を為す者に物を施すならば、(その悪人は)生命力を増すゆえに(悪の)生氣が長くなり、色を増すゆえに目に(悪の)光が宿り、(悪の)力が強くなるために足が早く、手がよくきくようになる。そのために食を施した人はかえって色を失い、生氣も弱くなり、力もなくなるといふ報いを受けるのである…と、述べておられます。

また法要の時とか、お盆の時には必ずお塔婆(卒塔婆)供養をいたします。元々は、お釈迦様の遺骨を祀る為の塔です。お弟子さん達が遺骨を分骨し、各地に塔を建てて供養したのが始まりでした。その場を一切の不浄を払って浄土とし、靈位の定住地としたり、仏様をお迎えするという意味もあります。

また塔婆は、既に仏様のお身体であり、故人と一緒におられるという事を示しており、更に成仏へと進むのです。

法華経には、塔婆供養をすると、長寿が得られ、幸運となり、悩みや苦しみが除けるとあります。このように塔婆を建てることは、故人はもちろん、供養した人も大きな功德を受ける事が出来るのです。また世間には、長く供養されず、誰にもお塔婆を立ててもらえない無縁仏が、真成寺の墓地に何軒かあります。現在それらの無縁墓の整理をしています。このような無縁仏のご供養を毎月一日、約三十年間に亘って、ご供養を続けておられるDさんという篤信(とくしん)の方もおられます。Dさんには当紙面をお借りして、心から御礼を申し上げたいと思います。必ずや目に見えない大きな功德となつて子々孫々まで及ぶものと信じます。

今年のお盆には、この無縁仏様にもお塔婆の一本を建立して頂く事をお勧め致します。どんなにか、お喜びになることでしょう。そして、計り知れない功德を積まれること疑い無しであります。

